

は
爬虫類

(現状の解明度)

広島県には亜種も含めてカメ目は2科4種、トカゲ目はトカゲ亜目が3科4種、ヘビ亜目は2科8種が生息しており、広島市にはそのすべてが生息している。

今回の調査では新たにトカゲ類3種の標本を得ることができた。このうちタワヤモリは「広島市稀少^き生物調査報告」では記録されていない種である。しかし、その生息状況についてはまだ十分に解明されたとはいえない。また、カメ類のデータは手薄なままである。さらに、今回課題としたニホンヤモリの分布状況は十分解明されなかった。

(選定結果)

2種を選定した。内訳は、広島市の絶滅のおそれのあるもの2種(軽度懸念1種、情報不足1種)である。

(選定しなかった種とその理由)

「広島市稀少^き生物調査報告」ではシロマダラが選定されている。

シロマダラは、見つかりにくいだけで少ないながらもかなり生息していることが判明したため選定しなかった。

は
爬虫類の選定種

広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念

タワヤモリ

広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

タカチホヘビ

は 爬虫類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念

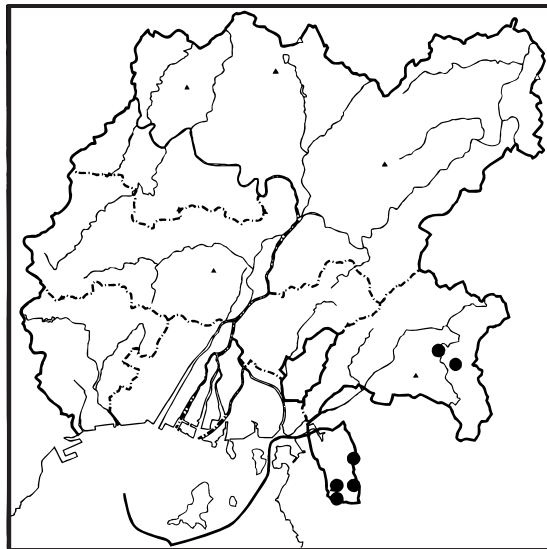
環境庁・県 R D B 種あるいはそれに相当する種で存続基盤が比較的安定している

■ タワヤモリ（トカゲ目，ヤモリ科）

Gekko tawaensis

瀬戸内沿岸の自然海岸や露岩地周辺に生息する。全長 90～140mm，頭胴長 50～70mm。波状黒色斑紋^{はんもん}があり，大型の鱗^{うろこ}がなく，側肛疣^{そっこうゆう}は 1 個，前肛孔^{ぜんこうこう}を欠く。

市域の確認地はすべて低山地のアカマツが優占する露岩地である。海岸の生息地が市域では存在せず，生息地の減少，悪化は明らかである。



は 爬虫類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・情報不足

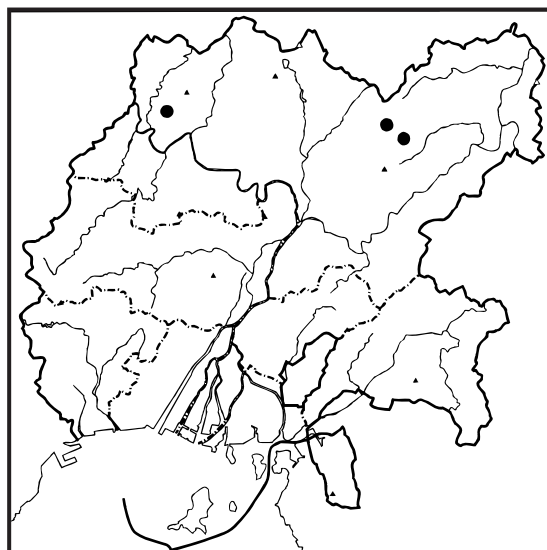
環境庁・県 R D B 種あるいはそれに相当する種で，現状が不明である

■ タカチホヘビ（トカゲ目，ヘビ科）

Achalinus spinalis

本州，九州，四国に分布。全長 60cm まで。背面中央には 1 本の黒条があり，尾下板が単一で対をなさない。鱗^{うろこ}が互いに重ならず乾燥に弱い。

市域では安佐北区から記録されている。県内では，中国山地周辺や呉市から記録がある。移動性が低い^{うろこ}ため，工事などで生息地が失われると絶滅の可能性が高い。



両生類

(現地調査結果)

両生類は生息環境が限定されるうえ、繁殖期でないと調査が困難なものがある。このため、できる限り繁殖期に調査を実施した。現地調査は、上安～後山～筒瀬、吉山川～八幡川、鈴張明神峠～飯室～高畑～沼田町伴、上三田～栃谷～桐山～人甲谷～大林～河津川源流、芸備線及び県道37号線沿いの谷筋、宇賀峽～高山～丹原、久地高畑～小河内小浜～高野、安芸区阿戸、似島、可部町、古江上で実施し、古江上では聞き取り調査も行った。また、旧市街地は、都市化が進んで両生類の生息は困難と思われたので、調査しなかった。

ブチサンショウウオやタゴガエルなどの確認をねらいとした調査ではないため、小さい谷、溪谷、山林などは一部でしか調査しなかった。さらに、調査期間が2年間と短いため、調査できなかった小集落もかなりある。

この結果、のべ45日の現地調査に調査委員の記録を加え、15種113産地を記録した。これに文献情報を加えると16種233産地となる。

オオサンショウウオは、繁殖を確認することはきわめて困難で、今回の調査でも幼生は確認されなかった。

(選定結果)

4種を選定した。内訳は、広島市の絶滅のおそれのあるもの2種(準絶滅危惧2種)、環境指標種2種である。

選定にあたっては、都市化や圃場整備の影響を大きく受け、市域でも繁殖が危惧される種を選定した。また、すべての両生類は、幼生期を水中で生活し、変態後は多くの種が陸上生活をするため、環境の多様性を示す指標生物として有効なので、この観点からも選定した。

ニホンヒキガエルは、広島県全域で減少しており、「広島県版レッドデータブック」の希少種である。市域でも大変見つけにくいので選定した。

オオサンショウウオは、国の特別天然記念物に指定されており、長命な成体は現在も各河川に生息はしている。しかし、各河川の成体が繁殖していることを示す幼生が確認されておらず、このままでは成体の寿命が尽きたときに一斉にみられなくなることが危ぶまれるため選定した。

ニホンアカガエルは、産卵期の冬期に水場がなくなったため、全国的に減少し絶滅が危ぶまれている。また、ヌマガエルは、今では多くの地域で鳴き声が聞かれなくなるほど減少した。この2種は、里山の水田環境を指標するので選定した。

(選定しなかった種とその理由)

「広島市稀少生物調査報告」で選定された種のうち、今回選定しなかったものは、つぎのとおりである。

モリアオガエル、ブチサンショウウオ

モリアオガエルは、近年減少しているので注意が必要であるが、絶滅のおそれを検討するほど減少の程度が著しくないので選定しなかった。ブチサンショウウオは、県内各地の河川源流で繁殖しており、生息地が山地でスギ、ヒノキの植林地の小溪流にも生息しているので選定しなかった。

トノサマガエル、シュレーゲルアオガエル、イモリも近年減少しているので注意が必要である。シュレーゲルアオガエルは、10年位前に一時住宅地の中でも水さえあればどこでも産卵がみられるほど分布を拡大したが、近年は広島市のみならず全県下で急速に減少している。

両生類の選定種

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧[△]

ニホンヒキガエル

オオサンショウウオ

環境指標種

ニホンアカガエル

ヌマガエル

両生類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

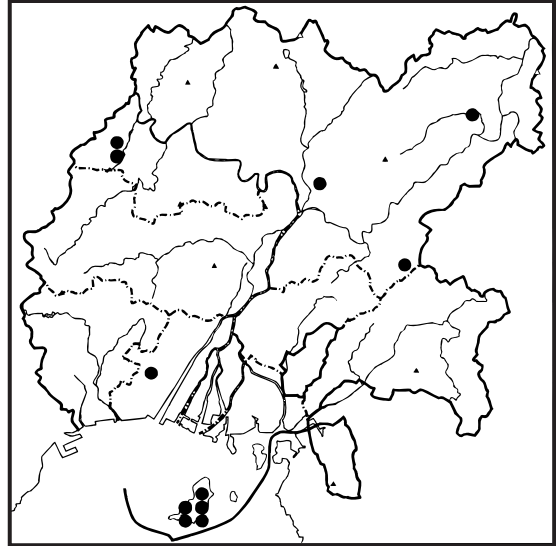
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ニホンヒキガエル（カエル目，ヒキガエル科）

Bufo japonicus japonicus

島根県と三重県を結ぶ線より南西に生息する。体長 80～ 176mm。背面は黄褐色，分泌腺の発達した隆起が一面にある。産卵は2月下旬から3月。

県内に広く分布していたが急激に減少し，市域では南区^{にのしま}似島とデルタを囲む山地でわずかにみられる程度である。繁殖地と生息地が急激に失われている。



両生類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

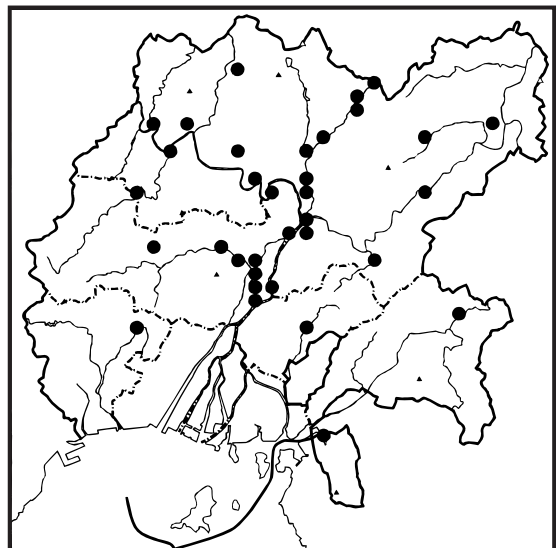
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■オオサンショウウオ（サンショウウオ目，オオサンショウウオ科）

Andrias japonicus

本州の岐阜県以西，四国，大分県に分布する。全長が1mを超える個体もいる。

繁殖している河川が全国的に減少しており，市域の確実な繁殖地は不明である。個体の確認は市内各地であるが，確実な生育地は不明である。安佐動物公園が人工繁殖に成功している。国の特別天然記念物。



両生類

環境指標種

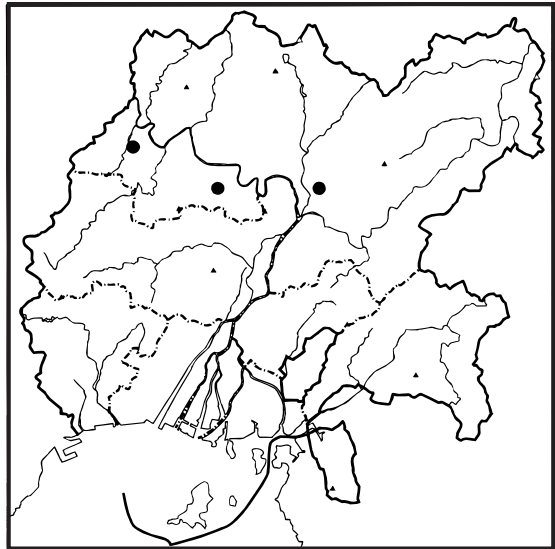
その種に注目することにより重要な自然環境の維持に貢献しうる

■ニホンアカガエル（カエル目，アカガエル科）

Rana japonica

本州，四国，九州に分布する。体長 34～67mm。体色はオレンジ色で，早春に産卵する。水田近くの草むらや林床で生活している。

市域ではデルタに生息していたものは都市化のためにいなくなった。安佐北区で生息を確認した。産卵期に水田の水がなくなり減少している。



両生類

環境指標種

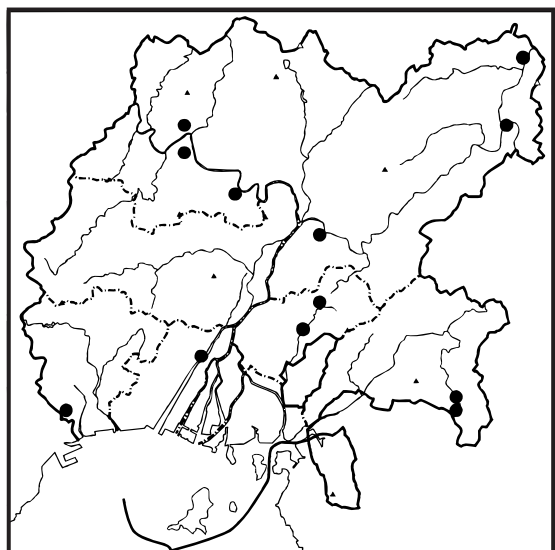
その種に注目することにより重要な自然環境の維持に貢献しうる

■ヌマガエル（カエル目，アカガエル科）

Rana limnocharis

神奈川以西に分布する。体長 30～42mm。体色は灰褐色に黒褐色の斑紋^{はんもん}がある。水田に多い。繁殖期は5～6月である。

市域では安佐北区^ほ，東区，安芸区で確認した。圃場整備と農薬，都市化による生息地の減少で個体数が減っている。



淡水魚類

(現状の解明度)

広島市には、中央部に太田川、東部に瀬野川、西部に八幡川^{やはた}という3水系があり、政令指定都市としては比較的自然環境に恵まれている。現在までに、円口類のスナヤツメを含めて30科75種が報告されている。この種数は、県内で記録されている淡水魚類のほぼ80%にあたり、市域を流れる河川に生息する魚類相の豊かさを物語っている。また、これほど多様な種の生息が可能であったということは、それだけ豊かな自然が残っていたことも教えてくれている。

(現地調査結果)

現地調査は、3名の調査員がのべ43日間をかけ、採集や水中観察により行った。調査地点は49地点であり、少しでも調査結果を比較検討しやすくするために、できるだけ「広島市稀少^き生物調査報告」の調査地点に合わせるよう設定した。

この結果、生息が確認されたのは16科34種であった。これは、市域で過去に記録されている淡水魚類の半数程度である。また、「広島市稀少^き生物調査報告」で報告された18科51種と比較して、80%程度の種しか記録できなかった。

この理由としては、調査方法や期間など調査自体の精度の違いによることもあろうが、河川環境に加えられた人工的な圧力が及ぼした影響であると考えられる。具体的には、市域の都市化が進む中で、流域からの生活・産業排水などの汚水の流入、及び上・中流域における河畔林の伐採、開発と造成による土砂の流入による水質の悪化と河床の変化、河川改修やしゅんせつ、暗きょ化などの土木事業による河川自体の形態や流程の変化などがあげられる。

今回の調査結果は、前述のような人工的な圧力が複合的に作用し、魚類をはじめとする水生動物の生息環境を変容させ、その変化に適応できなかった種では個体数の減少のみならず、個体群の維持さえ難しい状況になっていることを示唆している。

(選定候補種の抽出過程)

現地調査で得られた結果をもとに、「広島市稀少^き生物調査報告」における確認状況やその他の文献情報との比較検討を行い、既存の資料で選定された種についての見直しを含め、候補種を決定していった。

(選定結果)

16種を選定した。内訳は、絶滅1種、広島市の絶滅のおそれあるもの15種(絶滅危^く惧7種、準絶滅危^く惧6種、軽度懸念2種)である。

今回は、新たにスジシマドジョウ(中型種族)、メダカ、ゴクラクハゼ、ウキゴリ、スミウキゴリの5種を追加した。

選定種のみならず、選定しなかった種についても、その生息状況などをみると決して楽観できる状況にはない。

(選定しなかった種とその理由)

「広島市稀少^き生物調査報告」で選定された種のうち、今回移入種などと判断して選定しなかったものは、つぎのとおりである。

ヤマメ(サクラマス^の陸封型)、シロヒレタビラ、ビワヒガイ、マアナゴ^の葉形幼生

淡水魚類の選定種

絶滅・絶滅

ゴクラクハゼ

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧^ぐ

シラウオ

ヤリタナゴ

イシドジョウ

アカザ

スミウキゴリ

カジカ(ウツセミカジカ含む)

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧^ぐ

ワカサギ

サツキマス

アブラボテ

メダカ

オヤニラミ

ウキゴリ

広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念

スジシマドジョウ(中型種族)

ドンコ

円口類の選定種

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧^ぐ

スナヤツメ

淡水魚類

絶滅・絶滅

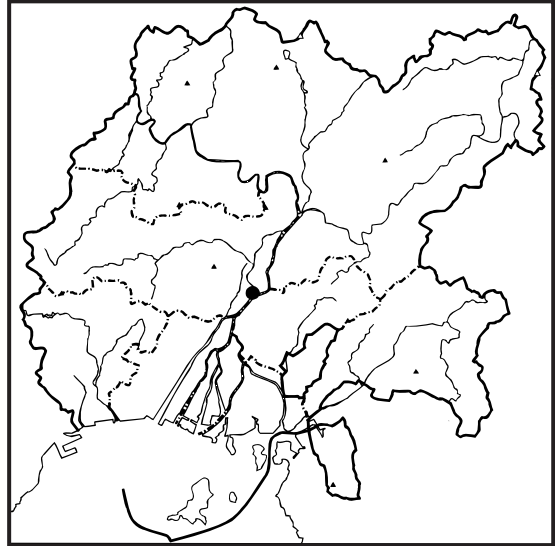
10～20年間確認されていない

■ゴクラクハゼ（スズキ目，ハゼ科）

Rhinogobius giurinus

茨城・秋田両県以南の本州，四国，九州，琉球列島に分布する。体長7cm。河川の下流域と汽水域の砂礫^{れき}底に生息する。体色は淡褐色で，頬^{ほお}に複雑な斑紋^{はんもん}がある。

瀬野川，太田川と安川の下流域に生息していたが，水質汚染，河床の掘削や早瀬の消失，河川への土砂の流入でみられなくなった。



淡水魚類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

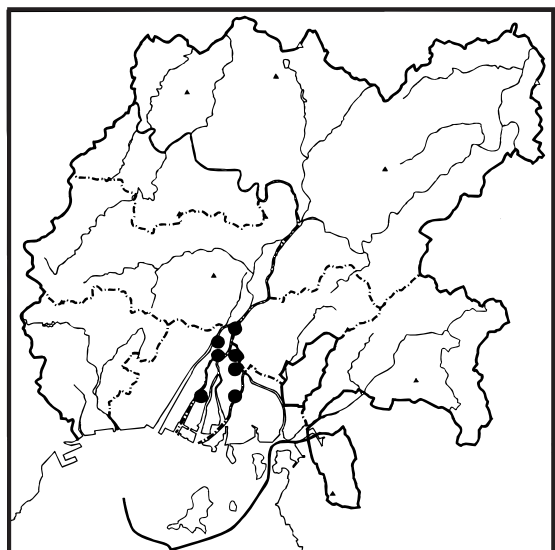
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■シラウオ（サケ目，シラウオ科）

Salangichthys microdon

汽水域に生息し，繁殖期に河川へそ上する一年魚。全長約80mm。太田川が西限にあたる。

デルタ域で行われていたシロウオ漁できわめて少数が混獲されていた。1992年までしかシロウオ漁が行われておらず，現状は不明。



淡水魚類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

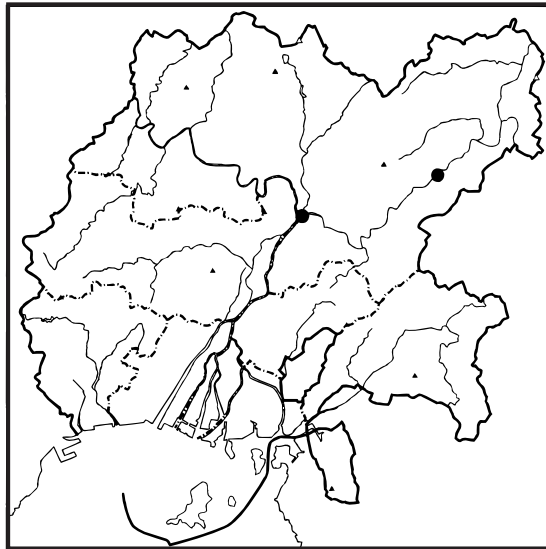
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■ ヤリタナゴ (コイ目, コイ科)

Tanakia lanceolata

北海道と南九州を除く全国に分布する。
全長60～100mmで、淡水二枚貝に産卵する。
淡水二枚貝の減少により個体数が減っている。

県内では黒瀬川・沼田川・芦田川・江の川水系に分布し個体数も多いが、太田川水系ではきわめて少ない。



淡水魚類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

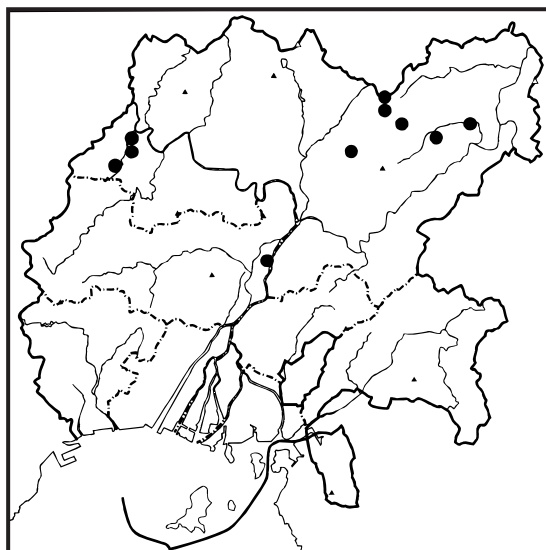
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■ イシドジョウ (コイ目, ドジョウ科)

Cobitis takatsuensis

西日本に分布し、中国、四国、九州から報告がある。全長6～7cm。体色は薄い黄色、
黒い体側斑紋がある。淵尻の礫底の間隙に生息する。

広島県では太田川水系と江の川水系に局限される。市域の既知の産地で調査を行ったが、個体数は減少している。土砂が流れ込み、礫間を埋めると生息環境がなくなる。



淡水魚類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

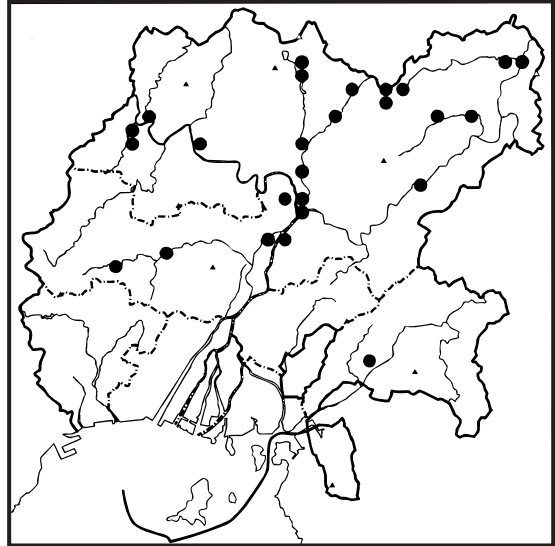
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■ アカザ（ナマズ目，アカザ科）

Liobagrus reini

宮城県と秋田県を北限とする本州，四国，九州に分布し，瀬の礫底^{れき}に生息している。全長10～15cm，体色は茶褐色。夜行性で石の下に潜む性質がある。

太田川水系に生息し，八幡川^{やはた}や瀬野川ではみられなくなった。水量の減少，水質汚染，農薬の影響で著しく減少した。



淡水魚類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

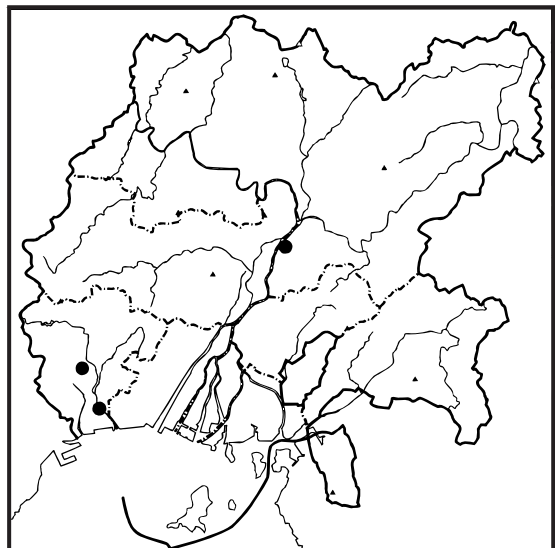
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■ スミウキゴリ（スズキ目，ハゼ科）

Chaenogobius sp.1

北海道，本州，四国，九州に分布し，汽水域から中流域に生息する。体長約7cm。ウキゴリに似るが，側線上の黒色縦列斑^{はん}及び第1背びれ後端部の黒色斑^{はん}がない。

八幡川^{やはた}と太田川で確認している。水質汚染と生息環境の悪化で減少している。



淡水魚類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

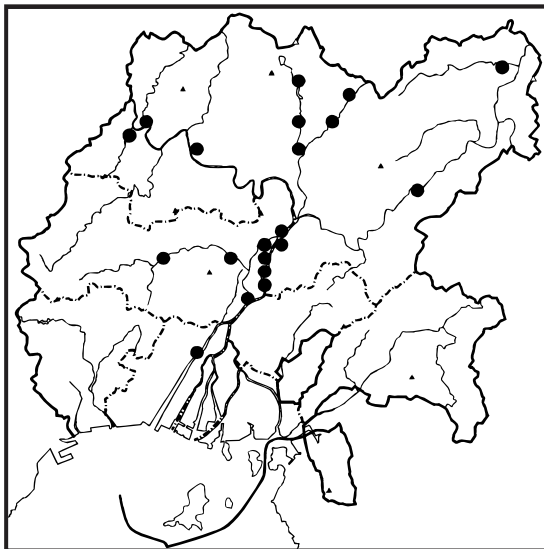
近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■ カジカ(ウツセミカジカを含む)(カサゴ目, カジカ科)

Cottus pollux

北海道, 本州, 四国, 九州に分布し, 中
～上流域に生息する。全長5～15cm。鱗^{うろこ}
は埋没しており, 体表は滑らか。両側回遊
型, 湖沼型, 河川陸封型に分類される。

太田川や瀬野川に広く生息していたが,
生息環境が悪化し減少した。両側回遊型は
ウツセミカジカとして環境庁レッドリスト
絶滅危惧^く 類に選定されている。



淡水魚類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

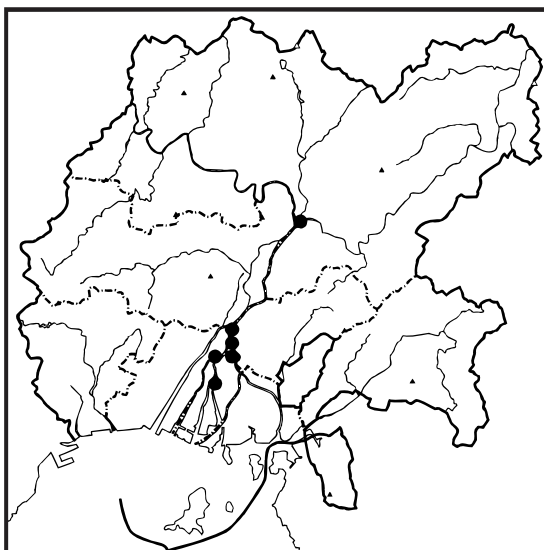
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ ワカサギ(サケ目, キュウリウオ科)

Hypomesus nipponensis

北海道, 本州の沿岸域に分布し, ダム湖
にも放流されている。全長約10cm。

デルタ域で行われていたシロウオ漁で捕
獲され, 生息が確認された。高瀬堰^{ぜき}周辺で
の確認は聞き込み情報で放流個体と思われ
る。1992年までしかシロウオ漁が行われ
ておらず, 現状は不明。



淡水魚類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

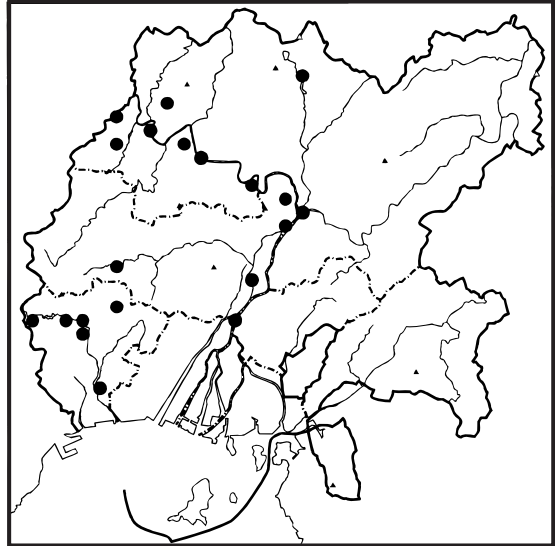
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ サツキマス（サケ目，サケ科）

Oncorhynchus masou ishikawae

アマゴが降海したもの。伊勢湾，大阪湾，土佐湾，瀬戸内海で確認されている。全長30～45cm，体重約0.5～1kg。晩秋に降海し，翌年5～6月に母川回帰する。

太田川，八幡川^{やはた}などで確認されているが，稚魚の放流もされており，天然個体とは断定できない。繁殖は河川上流で確認されている。



淡水魚類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

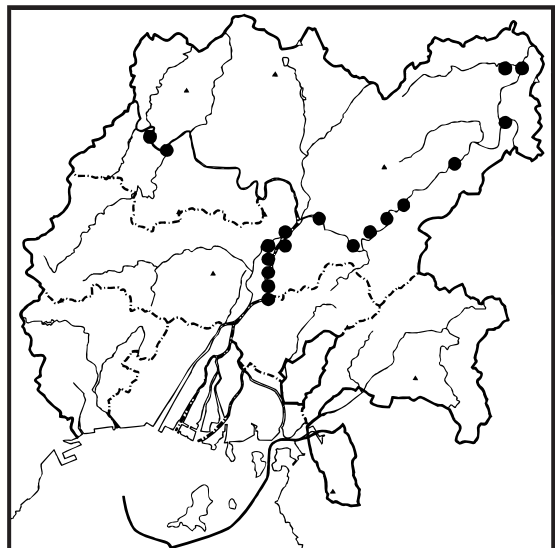
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ アブラボテ（コイ目，コイ科）

Tanakia limbata

本州，瀬戸内沿岸，九州北部に分布。全長4～7cm。淡水二枚貝に産卵する。体色は黄褐色ないし紫褐色。

太田川中流域と支流の三篠川^{みささ}に分布するが，近年生息域が縮小している。太田川水系ではカタハガイに産卵しているのが確認されている。



淡水魚類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

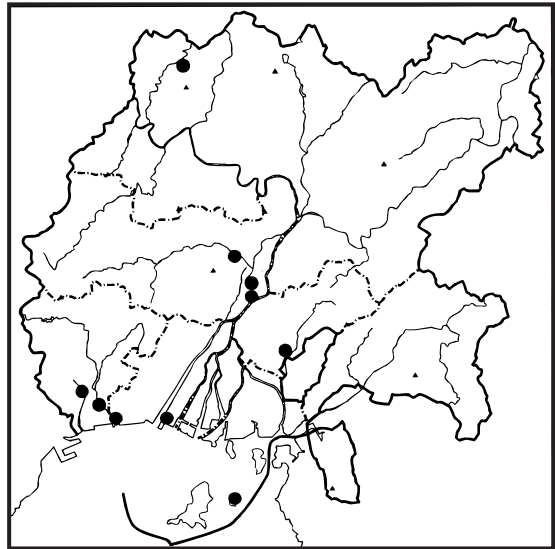
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■メダカ（メダカ目，メダカ科）

Oryzias latipes

本州から琉球列島まで分布する。体長約4cm。全国的に生息数，生息地ともに著しく減少している。

八幡川，瀬野川，府中大川などで確認しているが，減少している。太田川本流には生息していないようである。



淡水魚類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

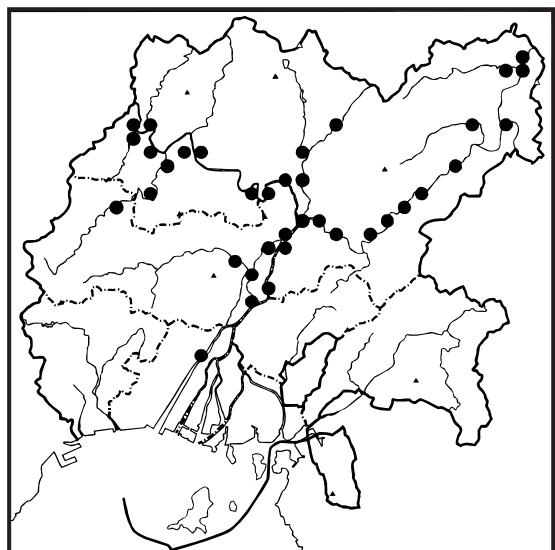
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■オヤニラミ（スズキ目，スズキ科）

Coreoperca kawamebari

京都府を東限とする本州，四国の一部（徳島県，香川県）と福岡県，熊本県を南西限とする分布域を示す。全長5～7cm，えらぶたに緑色の小斑紋^{はんもん}がある。

太田川水系では広く分布しているが減少傾向にある。八幡川と瀬野川では確認していない。河川整備や護岸工事などにより生息環境が消失すると種の存続が困難になる。



淡水魚類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・準絶滅危惧

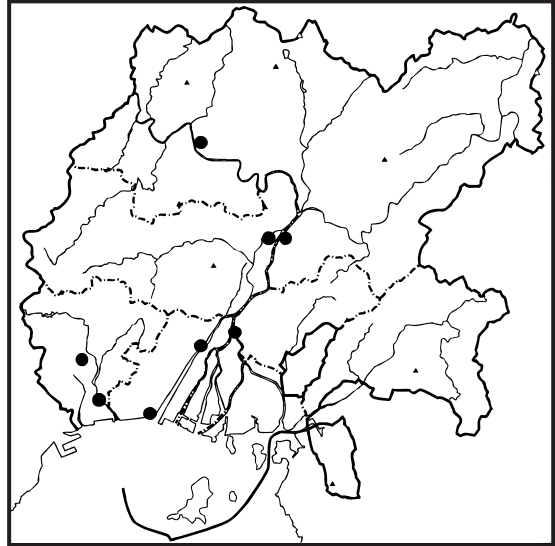
現時点での危険度は小さいが絶滅危惧に移行する可能性が大きい

■ ウキゴリ（スズキ目，ハゼ科）

Chaenogobius urotaenia

北海道，本州，九州の河川と諏訪湖，琵琶湖などの湖沼に分布する。体長約8cm。体側に大きな黒色斑^{はん}が並び，側線上に黒色縦列斑^{はん}がある。第1背びれの後端部に黒色斑^{はん}がある。

太田川と八幡^{やはた}川，瀬野川(海田町)で確認している。水質汚染と生息環境の悪化で減少している。



淡水魚類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念

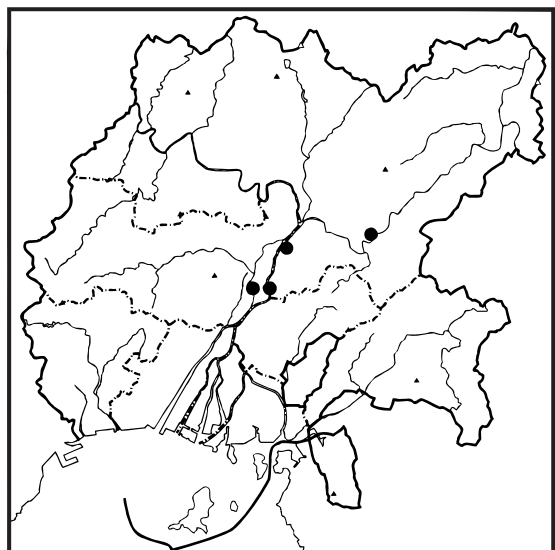
環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で存続基盤が比較的安定している

■ スジシマドジョウ（中型種族）（コイ目，ドジョウ科）

Cobitis sp.M

本州西部，四国の瀬戸内海側，九州西北部に分布し，河川中流から下流域に生息する。体は淡茶褐色で，体側に体長7～9cm。2本の暗茶褐色の縦条がある。

太田川水系の中・下流域に広く分布していた。水質汚染と河川改修等による河川形態や流速の変化，またそれに伴う河床の変化により，減少しつつある。



淡水魚類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・軽度懸念

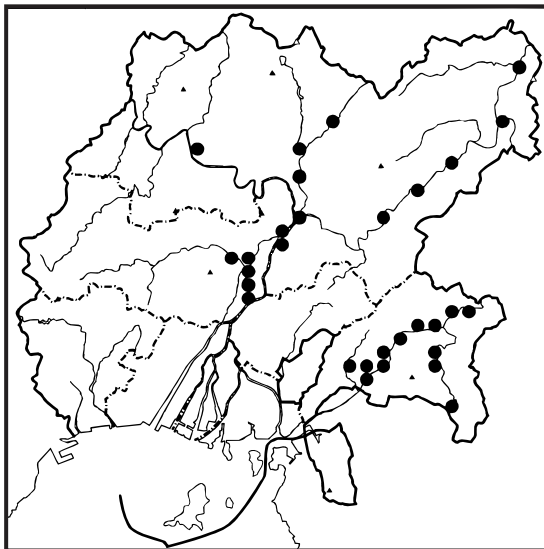
環境庁・県RDB種あるいはそれに相当する種で存続基盤が比較的安定している

■ ドンコ（スズキ目，ハゼ科）

Odontobutis obscura

本州西部，四国，九州に分布する。体長約15cm。体色は暗色で，第1背びれ，第2背びれの基底下方に下に広がる黒色斑^{はん}がある。

太田川水系と瀬野川水系で記録があるが，今回の調査では瀬野川水系でしか確認できなかった。水質汚染や河川改修等による河川形態・流速の変化，土砂の流入で減少している。



円口類

広島市の絶滅のおそれのあるもの・絶滅危惧

近い将来に広島市で個体群の存続が危ぶまれる

■ スナヤツメ（ヤツメウナギ目，ヤツメウナギ科）

Lampetra reissneri

北海道，本州，四国，九州（宮崎，鹿児島を除く）に分布する。幼体は盲目で茶褐色，成体は体長10～13cm。河川改修や河床の平坦化^{へいたん}の影響で急激に減少している。

太田川水系から記録があるものの，ほぼ絶滅に近い状況になりつつある。幼生が生息できる泥底の環境が河川工事などによって減少している。

